

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第6章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録 6章。

この素晴らしい書の6章を開いて下さい。

多くの人々が考え、疑問に思っていることは、「一体、ナニがどうなっているのか。」

それはまさに、この使徒ヨハネが手紙を宛てた人たちにも言えることでした。

黙示録を読む時に忘れてはならないのが、これは、ある教会へのメッセージとして、そこの牧師に与えられたものだということです。

ヨハネは牧師でした。

また預言者でもあり、詩人のようにこの書を書きましたが、彼は牧師として、大変な困難の中にいる信者たちを牧していたのです。

『小さな群れよ。恐れることはない。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。』(ルカ 12:32) とイエスは言ったよな。」

「イエスはこの世に来た時、神の王国を始めたんじゃないかったのか？」

「イエスが天に昇ったら聖霊が降りて来て、その大きな力を受けると言わなかったか？」

「なのに、今のこの状態は、一体どういうことだ！」と、みんなが言ったことでしょう。

勿論、当時、王国はありました。

でもそれは、クリスチャンではなくローマのもので、ローマ兵たちは、クリスチャンを非常に残虐な方法で虐殺していました。

兄弟姉妹が捕まり、引きずり回され、投獄されるのを、またライオンの餌食になったり、十字架にか

けられたり、熱い油に入れられ皇帝ネロの庭で火を点けられるのを、目の前で見ていました。クリスチャンたちには、全く理解できないことだったでしょう。

そんな時にこの書が書かれたのです。

当時の状況と終末論を論じて、将来の聖書預言を学ぶためだけではありません。

第一には、その時拷問され、虐殺されていたクリスチャンたち、その後、様々な困難に立ち向かう彼らの、「理解できない！どうなってるんだ!? どうしてこうなるんだ!?」

「主イエス・キリストが本当に支配しているなら、どうしてこんなに苦しめられるのか!?」という疑問に対処するために、この書が与えられたのです。

1章は“主の黙示。”

使徒ヨハネは1章で、島流しされたパトモス島で見た事を通して、この苦難や疑問への答えを書いています。

それは、彼がイエス・キリストから個人的に受け取った黙示でした。

彼が見たイエス・キリストは、燃える炎のような目、精錬された光り輝く真鍮のような足を持つ、栄光に満ちた復活体で、それはイエスの権威と美でした。

それで、自分が見たイエスの力、栄光がどれほどかを信者、兄弟姉妹たちに知らせるために書いたのです。

黙示録1章、イエスは生きていて、権威に満ちた力強い方。

2章と3章は“主からの忠告。”

主は何を忠告されたのでしょうか。

主は何度も何度も言いました。

「頑張れ！耐え抜け！潰されず乗り越えろ！」

なぜなら、「わたしはすぐに来る！」

「時は近づいている。すぐにでも永遠の時に入れる！」

「忠実であり続けるなら、栄光の冠を与える！」

4章は“期待。”

先に学んだように、教会は天国です。

主がヨハネに言ったように、私たちにも言われます。「ここに上れ！」

だから、苦難の真只中にいる時、生きていくストレスやしがらみを感じる時、期待するのです。

イエスは一人ひとりに言っています。

「いつかここに上って来なさい。」

これが私たちの期待です。

私たちは、いつか、主がいる所に引き上げられます。

人生は短い。勿論、誰もが困難や試練にぶつかり、迫害や問題にも遭います。

けれども大きな視点で見ると、私たちは、天国に向かって突き進んでおり、永遠を目指して走ってい

るのです。

これが4章のメッセージ。

ここまでついてこれましたか。

つまり牧師ヨハネは、ひどい困難の中にある人たちに、イエスの力と美の黙示を伝えているのです。

なぜなら、イエスが「上って来なさい！」と言われるという期待があるからです。

そしてみんな天国へ行きます。

5章は“説明”

どうして世はこのような状態になったのかについての説明です。

御座に座っておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。(黙示録 5:1)

また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか」と言っているのを見た。(黙示録 5:2)

だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく(黙示録 5:3)

私は激しく泣いていた。(黙示録 5:4)

その巻き物は、この前学んだように、地の権利書です。

両面に書かれ、七つの封印がされた巻き物は、聖書時代の人なら簡単に理解できました。

封印で封じられた“権利書”とは“破産”を意味しています。

もし土地を持っている人が破産すれば、その権利書は巻き物となり、七つの封印で封じられ、巻き物の裏側(外側)には、抵当に入った土地を買い戻すために支払われるべき金額が記されます。

それを支払って抵当に入った財産を買い戻し、再び自分の所有とするまでに、7年の猶予が与えられていました。

ここで言われているのは、とても重要なことを意味しています。

つまり、地はその権利を与えられたアダムとエバによって、今は崩壊し、抵当に入っている状態だということです。

罪に陥り、神に逆らい、その行いによって、自分たちが聞き従うことを選んだ相手、エデンの園で神に逆らい、自らが服従すると決めた相手であるサタンに、その権利書を渡してしまったからです。

そのため、今はサタンがこの地を支配しているのです。

本当です。

イエスがサタンを「この世を支配する者」と呼んでいます。(ヨハネ 12:31)

マタイ4章で、サタンがイエスを誘惑した時も、彼はそれに対しては論じませんでした。

「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」(マタイ 4:9)

イエスはここで、「それは、お前にはできない。」とは言いませんでした。

サタンが提案した権利については、イエスは論じませんでした。

その代わり、

『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」(マタイ 4:10)

「だからサタンよ。わたしは父だけを拝み、父にのみ仕える。

何を差し出されても、お前には決して膝を屈めない。」

使徒パウロはサタンを「この時代の神」と呼びました。

ここまでのことは非常に大切なので、今後もしっかりと覚えておいて下さい。

従って、悲しみや患い、病気や死、痛み、悩み、悲観、苦しみはサタンによるもので、アダムつまり私たちが、この世をサタンに明け渡した結果なのです。

だから戦争や災害、問題が尽きないのです。

人間が神に逆らった結果、全世界が負の影響を受けたのに、神が責められている。

それで5章で、ヨハネは激しく泣いたのです。

「何てことだ！地の権利書は封じられたまま。ということは、地は永遠に崩壊した状態のままじゃないか！」

「私の愛する人たち、私の教会、大切な教会員たちが、永遠にサタンによって支配されるこの世の影響を受け続けるのか！希望はないのか？」

そう言って激しく泣く彼に、長老が来て言いました。

「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得た」

(黙示録 5:5)

ヨハネは間違いなくライオンを探したでしょう。

でも彼が見たものは、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。(黙示録 5:6)

小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。(黙示録 5:7)

そう、彼は巻き物を受け取ったのです。

以上が5章で、表面上はローマが支配しているように見えていた悪の説明です。

しかし、小羊が巻き物を受け取りました。

そして6章では、権利書の七つの封印が解かれ、立証が始まります。

一つ一つの封印が小羊によって開けられ、罪の対価が支払われることになるのです。

いいですか？

皆さんと私の罪の対価は、私たちの代わりに、十字架の上で流されたキリストの血によって、もう既に支払われています。

しかし6章から19章で、取り残され崩壊し、反逆に満ちた世は、その罪の対価を支払うことになりません。

ここで覚えておくべきことは、この書は苦痛やあらゆる困難に直面し、苦しんでいるヨハネの兄弟姉妹たちの疑問に答えるためだけではなく、皆さんや私にも向けられたメッセージなのだということです。

歴史を通して総括的にこの書を見ると、これから起こることが順番に書かれているからです。

6章は3つのセクションに分かれる黙示録の、最終部分の始まりです。

黙示録にはアウトラインがあって、それに従うと、この書がとても簡単に理解できるのです。
そのアウトラインが書かれているのが、1章 19節。

イエスはヨハネに言いました。

「あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。」(黙示録 1:19)

3つのセクション。

1番目は“あなたの見た事”。1章。過去形。

イエスの蘇り、栄光の復活。

もう既に成就した事ですね。

2番目は“今ある事”。2章と3章。

これは教会の歴史で、7つの手紙とは7つの時代、または7つの教会史です。

それらが年代順に展開され、最後の一人が救われると教会史は幕を閉じ、第3セクションが始まります。

3番目は“この後に起こる事”。4章から22章。

“この後”とはギリシャ語で“メタ・タルタ”

「ここに上れ。“この後”、必ず起こる事をあなたに示そう。」(黙示録 4:1)

“メタ・タルタ”が4章の最初である1節に出てきます。

まるで主が言っているようです。

「“この後”起こる事だ。聞き逃すな！」

“この後”、最後の一人が救われて教会史が終わると、

4章と5章で、教会は間違いなく天国に上げられます。

その時、この地では何が起こっているかが6章に書かれています。

6章から19章は7年に及ぶ“大患難”。

教会は天国です。

4章と5章は“メタ・タルタ”。

教会史の後だから。

6章から続く大患難の最後、19章の終わりには、イエスが私たちと一緒に戻って来ます。

それから20章に入り、千年間続く平和と繁栄の千年王国が始まります。

その後、21章と22章では、私たちは新しい天と地で、永遠に幸せに暮らすのです。

これで全部ですよ。時系列的に読めばすごく簡単！

さて、心に留めておいて下さい。

私たち教会は間違いなく天に上げられ、天国で守られています。6章ではこの地に大患難が起こります。

これから一緒に学んでいきますが、通して見ると、これはものすごい黙示です。

6章で封印が解かれるたびに起こるのは、反逆の罪と破産への対価の支払い。

対価が支払われるのであって、神の裁きによるものではありません。

神の裁きは、後の“ラッパの裁き”で行なわれます。

ラッパの裁きでは、御使いがラッパを吹き鳴らして、御子を拒否し反逆した世に対する神の裁きが始まります。

“封印の裁き”に続いて“ラッパの裁き”。

それが終わっても、まだ7つの裁きが定められています。

“鉢の裁き”です。

言うならば“最後の仕上げ”。

きれいに片付けて千年王国に備えるのです。

では、“封印の裁き”とは何でしょう。

主が権利書を受け取り、それを開くと、人間によってもたらされた破産の状態や借金が解き放たれますが、それは、「私の王国だ！やりたいようにやる！」というような、人間の言動による罪が招いた当然の結果なのです。

教会は、この場面からは取り去られています。

今でも世界はメチャクチャになっていますが、全てのクリスチャンが、瞬時に携挙されていなくなったら、不法の人を“引き止めているもの”がなくなってしまう（第2テサロニケ2章）、地獄の火ぶたが切って落とされるのです。

なぜなら、教会という引き止める力がなくなって、やりたい放題になるからです。

どういうことが起こるかは、封印の裁きとして記されています。

これは神の罰ではありません。

エレミヤ書2章には、とても大切なことが書かれています。

ここで神は、反逆した民に、その問題を指して言いました。

あなたは主を捨てたので、このことがあなたに起こるのではないか。(エレミヤ書 2:17)

「あなたたちが、自分で招いたのだ。」と主は言われているのです。

あなたの悪が、あなたを懲らし、あなたの背信が、あなたを責める。(エレミヤ書 2:19)

つづく

謙遜と、主を恐れることの報いは、富と誉れといのちである。(箴言 22:4)